



JICA保健医療ニュースレター 「保健だより」第68号

2025年2月28日発行



今号のトピック

グローバルヘルス合同大会・ HSR2024国際シンポジウム

厳しい寒さも続きますが、体調など崩されておられませんでしょうか。突然ですが、12月12日が何の日かご存知でしょうか。「●●●の日」として国連で定められています。(答えは巻末に記載しています！)

さて、保健だより第68号では、昨年11月に開催された2つの学術集会「グローバルヘルス合同大会2024」と「The 8th Global Symposium on Health System Research 2024 (HSR2024)」を中心にご紹介いたします。前者は沖縄で、そして後者も日本初開催となる長崎で開催され、JICAプロジェクト専門家やカウンターパートも来日し、白熱した議論が繰り広げられました。発表者からの報告やちょっとした裏話を掲載しています。ぜひご覧ください！（保健第4チーム 疋田）

目次

- ◆ グローバルヘルス合同大会・HSR2024国際シンポジウムの報告 1
- ◆ グローバルヘルス合同大会 Joint Congress on Global Health 2024に参加して 2
- ◆ HSR2024国際シンポジウム開催報告 3
- ◆ HSR(ポスター発表報告、カウンターパート招へいの裏話) 4
- ◆ 国別研修「ASEAN災害保健医療管理」を実施しました 5
- ◆ 海外OJT体験記(ウガンダ) 6
- ◆ 保健グループ What's Up 7
- ◆ 編集後記

グローバルヘルス合同大会・ HSR2024国際シンポジウムの報告

【グローバルヘルス合同大会】

2024年11月16日～17日の2日間、沖縄県糸満市にてグローバルヘルス合同大会2024が開催されました。第65回日本熱帯医学会大会・第39回日本国際保健医療学会学術大会・第1回台湾グローバルヘルス学会の合同で、『Proposals from Asia and Pacific Islands』というテーマのもと各種発表がありました。また、合同大会ならではの特別合同企画や共催シンポジウム等もありました。JICAが登壇したシンポジウムとワークショップについて紹介します。



【HSR2024国際シンポジウム】

2024年11月18日～22日の5日間、長崎市にてHSR2024(The 8th Global Symposium on Health Systems Research)が開催されました。HSRは保健医療制度の世界最大の学会組織であるHealth Systems Global (HSG)が、2年毎に開催する世界規模のシンポジウムで、日本での初開催となります。JICAは、長崎大学と共に本大会の共同ホストを務めました。世界100か国以上の国と地域から1500人以上もの保健行政、研究機関、国連機関、NGO等からの参加者が集まり、活発な議論が行われました。



【参考】

- グローバルヘルス合同大会の詳細：
<https://www.okinawa-congre.co.jp/gh2024/>
- HSR2024国際シンポジウムの詳細：
<https://hsr2024.healthsystemsresearch.org/>

■ グローバルヘルス合同大会 Joint Congress on Global Health 2024に参加して

本合同大会は、国内外における多様な健康課題解決へ向け、研究や取組事例などの共有により専門的かつ学術的な知見を深める場です。JICAからも本部職員や多くの専門家が参加しました。ここではいくつかのセッションの様子をご紹介します。



11月16日 シンポジウム "Build forward better of Health System among Pacific Islands Countries" における参加者集合写真(於くる糸満)

1. シンポジウム "Build forward better of Health System among Pacific Islands Countries" へのカウンターパートの参加

11月16日に沖縄県保健医療介護部、琉球大学、JICAによる共同で開催された本シンポジウムには、「[大洋州地域強靱な保健システム構築のための連携強化プロジェクト](#)」における本邦研修に参加中のフィジー、トンガ、ミクロネシア、キリバスからの研修員11名が参加し、各国の代表が登壇しました。

各国代表は、COVID-19下でどのように必須保健サービスを継続して提供したのかについて発表しました。具体的には、医療機関のレベルや地域特性に応じたサービス提供の在り方を見直すこと(フィジー)、持続的な医療サービス提供のための人材確保と研修機会の提供(トンガ、キリバス)、地域ボランティアや女性グループの協力による感染

防止の啓発活動や衛生キットの配布(ミクロネシア)について振り返りました。また、シンポジウムのまとめでは、保健第3チームの小澤課長が、平時から保健サービスの重複を避け効率化することや、災害医療チームとの連携等緊急時の体制との連動の重要性についてコメントしました。4か国のカウンターパートが一同に集い、大洋州域内における共通の課題や各国における既存資源の活用などについて学びあい、同じ島嶼である沖縄の取組からもヒントを得た貴重な機会となりました。さらに、健康危機時への備えとしてのチームビルディングにも役立っ、大変有意義な機会になりました。

(保健第3チーム 氏家)

2. JICA課題別研修参加者による合同大会参加

2024年10月27日から11月19日の期間に沖縄県で実施された課題別研修「地域保健システム強化による感染症対策」に参加中の研修員が、11月16日に研修の一貫として参加しました。本研修は、日本・沖縄の公衆衛生活動の歴史や実践、保健システムを学ぶことにより、各国の課題解決に応用可能な知見と、それらを活用した効果的で実現性の高い保健事業改善計画の立案

を目指した研修で、パキスタン、ベトナム、ミクロネシア連邦、バレーズ、パプアニューギニア、インドネシアの6か国から6名が参加しました。研修員はシンポジウムやポスター発表を聴講するだけでなく、研修員自身の研究分野や自国の課題を大会参加者と議論する場面も見られるなど、大変貴重な学術的交流の機会となりました。

(保健第2チーム 黒部)

3. 人材育成と分野横断的なアプローチに関するJICAのインプット

日本国際保健医療学会教育研修委員会企画の「グローバルヘルスで活躍するためのキャリア設計ワークショップ」に、保健第1グループの伊藤次長が座長の一人として、筆者が発表者として参加しました。様々な立場やバックグラウンドを有する5名の発表者が、これまでの教育や実務の経歴を紹介すると共に、伊藤次長よりキャリアパスの考え方やJICAの人材育成・研修制度の紹介を行いました。国際保健への携わり方、そのために受けてきた教育や経歴には実に幅広いバリエーションがあり、筆者からは非医療職として、キャリア半ばで国際保健に携わるようになったきっかけ等を共有させていただきました。

また、信州大学友川幸准教授が座長を務めた "The proposal from Asia for promotion and future co-innovation of School Health" のワークショップにおいても、コメンテーターを務めました。各発表者より、乳幼児期の子どもの発達、包括的性教育、プレコンセプションケア、メンタルヘルス等幅広い分野における学校保健の可能性につき紹介があり、プラットフォームとしての学校の潜在力を強く感じました。また、コメントではJICAの学校保健の取組を紹介すると共に、現場でのマルチセクター(特に保健・教育)連携の課題と日本の給食における連携の成功要因について触れました。(保健第3チーム 小澤)

4. 自由集会「挑戦を受ける日本の保健医療協力:多様化するニーズに我々は応えきれぬのか？」

国立国際医療研究センターの野田信一郎課長と野崎成功真医師がオーガナイザーを務める標記自由集会に、発表者及びファシリテーターとして参加しました。様々な立場の参加者の皆さんから現在のニーズ・課題

を出していただいて意見交換を行い、今後の日本の保健医療協力がどう変わっていくべきなのかをブレインストーミングする良い機会となりました。

(保健第1グループ 伊藤)

■ HSR2024国際シンポジウム開催報告

2024年11月、JICAは第8回保健システム研究グローバルシンポジウム(The 8th Global Symposium on Health Systems Research 2024: [HSR2024](#))を長崎において長崎大学および日本国内の関係機関と共同でホストして開催しました。日本初開催となった同シンポジウムには、世界113の国と地域から1500人以上の研究者や実務者が参加し、全体テーマ「公正で持続可能な保健システムの構築: 人々を中心として地球を守る」のもと、5日間にわたり活発な議論が行われました。

JICAは開催地運営委員会の一員として会議の日本招致や全体企画に貢献したことに加えて、サテライトセッション(8件)※

を主催した他、職員や国際協力専門員が様々なセッションに登壇、さらに展示ブースやミニイベントを通じてJICAの事業や取組について発信しました。また、アフリカ、アジア9か国からカウンターパートを招へいし、現場の経験に根差した声や成果を世界に発信しました。

2022年に開催地が決定してから2年以上にわたる準備は大変なこともありましたが、国際的な学会組織(Health Systems Global)や、長崎県・市を含む日本国内の多様な関係者(開催地運営委員会には10組織が参加)と協力して大規模な国際会議を共催できたことはJICAにとって貴重な経験となりました。

(グローバルヘルスチーム 西村)

※ 関連リンク(サテライトセッションの動画も公開しています！)

- [第8回保健システム研究グローバルシンポジウム\(HSR2024\)でJICAサテライトセッションを開催\(その1\)](#)
- [第8回保健システム研究グローバルシンポジウム\(HSR2024\)でJICAサテライトセッションを開催\(その2\)](#)



HSR日本開催の意義について

JICAが長崎大学等の内外のパートナーと協力してHSRを日本に招致したことは、大きな意義があると考えています。

一つ目は、知的発信の面でも、グローバルヘルスにおける日本の存在価値を高めることです。これまで日本政府はG7やG20等の外交の場でグローバルヘルスの共通目標の設定に大きな役割を果たし、JICAは多くの開発途上国の現場でそれら共通目標にも沿った相手国の能力強化に取り組み成果を挙げてきました。しかしながら、現場の取り組みで得た様々な知見を体系化し、世界的な合意形成にも貢献するナレッジを提供するという点では、限られた役割しか果たせていません。保健政策・システム研究の第一人者が集うHSRをこの時期に日本で開催することは、日本政府がグローバルヘルス戦略を発表(2022年)し、同戦略を踏まえG7広島においてUHCの実現、健康危機対応(PPR)のためのグローバルな仕組み(グローバルヘルス・アーキテクチャ)の強化、イノベーションの推進を3本柱とする首脳合意がなされ

(2023年)、WHOと世銀の共管によるUHCナレッジハブを日本に設置する(2025年)という政治的な流れにも沿ったものになりました。

二つ目は、日本を含むアジア大洋州諸国では人口動態や疾病構造の変化、経済発展を背景に医療保障を含む社会制度の設計・改革が進められています。グローバルヘルスの世界的な議論にアジア大洋州の豊かな知見で貢献する流れを強化したいという思いもありました。

そして三つ目は、世界的なナレッジマネジメントのイベントを共催することで、事業を通じて相手国の能力強化を支援すること以上に、JICAの可能性を広げる事でした。多くのパートナーとの共同によってHSR2024は成功裏に終わりました。しかし、HSRはこれらの実現に向けた一つのステップでしかありません。大切なのは、HSRを通じて得られたものを今後の事業展開にどう生かしていくか、だと思います。

(緒方研究所主席研究員 瀧澤)



開催地運営委員会(LOC)集合写真



JICA展示ブース



ミニイベントの様子



おまけ:長崎の路面電車でもHSRを広報

■ HSR(ポスター発表報告、カウンターパート招へいの裏話)

ポスター発表:貧困・紛争国における保健システム強化と「がん」対策

アフリカでは、高齢化や人口増、都市化や環境汚染などを背景に、「がん」の死者数が急増しており、2030年にはマラリア・結核・HIVエイズによる死者数の合計(年110万人)を上回る見込みです。しかし、多くの国では対策が遅れており、現状把握も進んでいません。そこで今回のポスター発表では、西アフリカの貧困・紛争国ブルキナファソにおける小児がんケアへのアクセス状況と、社会的な阻害要因を取り上げました。

小児がんは早期治療で8割以上が回復しますが、同国では生存率が1割を下回ります。現地での調査結果からは、子どもの症状に気づいてから診断に至るまでに約18週間

(中央値)と長い時間がかかっており、小児がんの症状が末端の医療者に知られていないこと、伝統的医療の重視、医療費の個人負担が大きいこと、病院が遠いこと、検査に要する時間、などが背景にあることが分かりました。がん対策は貧困国が直面する新たな共通課題です。そのため、様々な国の政策実務者や研究者から質問やコメントを頂きました。がん対策には時間と投資が必要です。研究者の立場から、がん対策を見ずえた保健システムの強化に貢献していければと考えています。

(緒方研究所・研究員 井田)



ポスター発表の会場にて、ラオスからの研究者と



ブルキナファソの保健省・病院でがん対策に取り組む共同研究者達と

HSRxUHCx長崎ツアー

セネガル、ケニア、エジプトにおける保健財政改革やJICAによる支援を共有するサテライトセッションが開催され、私が緒方研究所の事業として取り組んでいる研究成果の一部を発表する機会もいただきました(詳しくは[こちら](#)のセッション6をご参照くだ

さい！)。これに合わせて来日したカウンターパート向けに、戸辺専門員が自ら長崎市内ツアーを企画・実施していただきました。平和公園・平和祈念像、長崎原爆資料館、長崎大学医学部や熱帯医学ミュージアム、諏訪神社(結婚式の撮りに混ぜてもら



諏訪神社を楽しむ一行

セッション報告「保健政策と実践の狭間で:ラオスの保健医療施設におけるサービスの質向上の取り組み」

ラオスからは、実施中の3案件から5名のラオス人カウンターパートが来日し、「保健政策と実践の狭間で:ラオスの保健医療施設におけるサービスの質向上の取り組み (Between health policy and implementation: Efforts to improve service quality in health facilities in Lao PDR)」と題したセッションを企画しました。

JICAがこれまでに協力を続けてきた、国民健康保険、質の高い保健人材開発、医療施設におけるサービスの質の改善などに関し、政策立案と実際の現場におけるギャップに

ハプニングも!)、長崎市歴史文化博物館など盛りだくさんの内容で、皆さん大満足。終戦後の焼け野原から国民皆保険達成に至るまでの日本の歴史に思いを馳せた...かもしれません。

戸辺専門員、お忙しい中ありがとうございました!

(保健第4チーム 戸川)

ついて発表を行いました。国際学会で初めて英語で発表する方もおり、来日前からプロジェクト専門家とも入念な準備を行いました。始めは緊張した面持ちでしたが、他国の参加者と交流する中で活発な情報交換が行われ、仕事へのモチベーションが高まった様子がうかがえました。

発表者のインタビュー記事がラオス事務所のホームページに公開されておりますのでぜひご覧ください!

[保健分野の専門家に聞く~第9回美弥子所長が聞く~](#)

(保健第4チーム 疋田)



オープンディスカッションの様子



質問に答えるラオス人カウンターパートたち

国別研修「ASEAN災害保健医療管理」を実施しました

現在、ASEAN地域の災害保健医療管理に係る能力や連携強化を目指した「ASEAN災害保健医療管理に係る地域能力強化プロジェクト(ARCH2)」(2022年1月～2026年3月)が実施されています。同プロジェクトの一環で、2024年10月下旬～11月上旬に実施された本邦研修(20日間)に、ASEAN各国の保健省や災害医療関連機関、病院等に所属する19名が参加しました。日本を含む他国の救急・災害医療システムを学び、参加者間の経験共有を行うことで、域内の連携促進及び能力強化に繋げることで、特に災害医療に関しASEAN各国の保健大臣が2025年末までの達成に合意している7つの国別目標の実現のためのアクションプラン案を、日本の知見の活用と研修員間の相互学習を通じ、各研修員が作成することが本研修の重要な目的です。

千里救命救急センターでは、日本の救急医療や災害医療の専門家が招かれ、緊急医療チームの開発や派遣、日本の災害時における国際支援の調整、災害時の医療情報管

理、多数傷病者事案管理体制、災害保健医療管理に関する研修や教育システム等、ASEANの災害保健医療管理の分野で重要視されているテーマに沿った講義や実習、意見交換が行われました。

また、研修の一環として、千里救命救急センターが主催する第21回千里メディカルラリー¹(11月3日)にも参加しました。研修員は医師や看護師、救急救命士、業務調整で構成される緊急医療チームとして参加し、各シナリオに応じた模擬患者の診察や処置を行いました。参加を通じて、多職種との連携やコミュニケーション、チームワークの重要性、適切な処置や判断を行うために留意すべき点等、日本の病院前医療や救急医療について実践的な学びを深めることができました。

なお、過去2回実施された国別研修を踏まえ、今年度の研修では、過去2回の研修員が作成したランの実施状況を確認し、その取り組み状況をさらに推進したり、あるいは別の国別目標に対する計画を追加するアクションプラン2024案の作成に取り

組みました。各国研修員は、他国の研修員や講師等からのコメント等を受け、現状や課題、今後目指すべき姿等を意識しながら、アクションプランを作成することができました。その他、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、タイ、ラオスの5か国より、2024年9月に発生した台風11号(ヤギ)に関する緊急医療チーム対応の報告もなされました。各国からの報告により、今後発生しうる災害への対応を見据えた経験の共有に繋がった様子がうかがえました。

帰国後、研修員は、国別研修を通じて各自が作成したアクションプランの実現に向けた働きかけをプロジェクトと協力しつつ各国で実施すること、さらに研修員間のネットワークを通して、引き続きASEAN域

内の災害保健医療管理分野の発展や活動に貢献していくことが期待されています。
(保健第3チーム 倉持)



日本の災害対応の仕組みに関する講義の様子



メディカルラリー参加の様子



閉講式の集合写真

1. メディカルラリー:日本各地から医療チームが参加し、特殊メイクを施した模擬患者を診察して限られた時間内でいかに的確な診断と治療を行うことができるかを競うコンテスト。

10月から12月にかけて、新人研修の一環として、ウガンダ事務所に派遣され、海外OJT(On-the-Job Training)を実施しました。現地で従事した業務と学びを紹介します。

■5S-CQI-TQMを通じた患者安全構築プロジェクト

保健医療サービスの質向上のため、JICAは5S-CQI-TQM²を通じた患者安全の管理手順の確立、病院安全レポートシステムの整備等を通して患者安全文化の醸成を図る技術協力プロジェクトを行っています。

この度、専門家チームに同行し、プロジェクト対象18病院のうち、リラ地域中核病院における患者安全マネージャー研修、ジンジャ地域中核病院でのカイゼンスーパービジョンに参加しました。これを通し、研修参加者の主体性を引き出すためにグループ

ワークを多く取り入れる、プロジェクト終了後の持続性を見据えアクションプランを重視する、といった専門家の工夫を学びました。また、病院スタッフの積極的な参加態度や、5Sやカイゼンを活用して病院環境改善に取り組む現場の強みを感じました。一方で、スタッフの多忙や予算や物品の不足、病院安全レポート(インシデントレポート)提出に対する意識のハードルの高さといった現場の課題について理解を深めました。



患者安全マネージャー研修のグループワークの様子



患者安全マネージャーとプロジェクトチーム

2. 5S (Sort, Set, Shine, Standardize, Sustain)- Continuous Quality Improvement - Total Quality Management: 日本語の「5S(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)」、カイゼン、総合品質管理。日本の産業界で開発された職場環境改善及び品質管理の手法のこと



ウガンダスタートアップ企業とのネットワーキングセッション

■保健医療×ビジネス・スタディツアー

12月2日から6日にかけて、ウガンダ事務所主催の「保健医療×ビジネス・スタディツアー」が開催され、保健医療分野でウガンダでの事業展開を希望する日本の4企業が参加しました。参加者は、ウガンダの様々なレベルの医療施設の視察、保健省との面談、同国のスタートアップ企業及び現地で事業を展開する日本企業との交流を通し、ウガンダの保健分野の現状について学び、同国での事業展開の可能性やその方法について理解を深めました。

ツアー業務を通し、無料で医療を提供している公立病院と、私立病院との病院環境やケアの質の違いも目の当たりにし、よりよい医療にアクセスできる患者とそうでない患者との深刻な健康格差が生じている現状を知ることができました。一方で、日本企業と現地企業のネットワーキングセッション

においては、ウガンダのヘルスケアの課題に取り組むスタートアップ企業が多く参加していました。現地起業家から日本企業の事業に対し活発に質問が出るなど、強い関心が示され、私としても、今後の日本とウガンダの連携も含めた、ビジネス面での保健課題解決にむけた可能性を感じました。



ヘルスセンター訪問の様子

OJTで得た現場の知見に加え、根本的な課題の解決に資するニーズを理解する洞察力、課題に優先順位をつけて取り組むスキル、日々の関係者との密なコミュニケーションの重要性などの学びを活かし、よりよい協力の実現に貢献できるよう今後の業務に従事したいと思います。(保健第1チーム 岸野)

保健グループ What's Up (2024年11月～2025年1月)

最近の保健グループス関連の動きを掲載します！

【技術協力】

- ベトナム「ウイルス性肝炎予防対策強化プロジェクト(2024年11月、専門家派遣開始)
- ブルンジ「母子保健サービス強化プロジェクト フェーズ2」(2024年11月、業務調整専門家派遣開始)
- トルコ「トルコにおける顧みられない熱帯病、特に節足動物媒介性感染症制御に向けたワンヘルスの展開(SATREPS)」(2024年11月、業務調整専門家の派遣開始)
- コンゴ民主共和国「感染症疫学サーベイランスシステム強化プロジェクト」(2024年12月、終了)
- シエラレオネ 母子手帳を活用した母子継続ケア強化専門家(2024年12月、派遣開始)
- セネガル共和国「医療サービスの質改善プロジェクト」(2024年12月、R/D締結)

【国際会議など】

- 沖縄「グローバルヘルス合同学会」(2024年11月)
- 長崎「HSR2024国際シンポジウム」(2024年11月)



12月12日は「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC; Universal Health Coverage)の日」でした。

UHCとは、「誰もが、どこでも、お金に困ることなく、必要な質の高い保健医療サービスを受けられる状態」をさします。皆様も一度は耳にしたことがある言葉かもしれません。

WHOと世界銀行による、[2023年UHCグローバル・モニタリング・レポート](#)によると、世界人口の半数以上が未だ必須保健サービスにアクセスができていないとされています。

JICAでは、保健分野の協力を通じ途上国におけるUHC達成の支援を行っています。



UHCとは？

JICAの事例紹介

編集後記

保健だより68号をご覧いただきありがとうございました。

本号では11月に沖縄で開催されたグローバルヘルス合同大会と長崎で開催されたHSR2024国際シンポジウムを中心にご紹介しました。皆様にご関心を持っていただけましたら幸いです。記事執筆にあたりご協力をいただいた皆様には編集チーム一同感謝申し上げます。

次号の保健だより69号もどうぞお楽しみに！

(保健第1チーム 島)



保健だよりで取り上げてほしい特集テーマを募集します！

人間開発部 kadaishien-ningen@jica.go.jp

までお寄せください！

ご意見ご感想もお待ちしております！